

(其の壹)

平成廿七年七月九日

壹月廿日に入院以來遂に半年を數ふ。入院の期限半年と定められたらば愈々退院の日の來たるなり。未だく自力にては何事も爲す能はずと云へども期限は期限にて退院せざるを得ず。小生の入院中に妻はバリアフリー住宅を見附け獨力にて早々に轉居濟みなれば妻には感謝有るのみ也。

介護タクシーに車椅子にて乗り込み、病にて倒れたる南區浦舟町の「高砂家」てふラーメン屋の病院より意外なる近さに驚けり。救急車にての搬送時間はホンの十分なるか。當日は水曜日、週一回のみの出勤日にて浦舟町の元病院なる職場に出勤し晝食にラーメンを攝らんとて馴染の高砂家のカウンターにてラーメンを待つ。しかし、ラーメンは出來上がれどもラーメン鉢へと左手延びず。否、左手全く動かず。店主直ぐに小生の異常に氣附きて救急車を呼び給へり。誠に有難きかな。自宅と職場へは尙自力にて電話せり。職場からは同僚一人救急車に同乗これまた有難きなり。

是より數日間は記憶定かならず。ベッドに横に成りたる儘シーティースキャン等検査をうろ覚えせるのみ。

(其の貳)

平成廿八年八月十二日

七月十日は參議院議員選舉投票日なり。當然病院にて不在者投票なすべきものとして問ひ合せたるところ、「退院豫定日の九日なれば今回は不在者投票不可なるべし」との事なり。

扨て、十日の投票日となれり。當日は晴天なれば、妻投票所なる地區センターまで余を車椅子に載せ押し行けり。御蔭様にて無事投票し終へたり。車椅子より見る町の様子は今迄とは異なりて新鮮に感ず。特にコンビニ内部等棚が目前に迫りて面白し。半年振りの外出なり。日光を浴ぶるも久方ぶりなれば野球帽被りて歩道上をガタゴトと移動すなり。

(平成二十八年八月二十日受附)